

炮兵懸垂て二条の天守城眼下に砲ひ。砲と放る鐵殻もあごの保つあと
 を得ん。発砲。殊望まで。微塵みなしく飛散る。矢筋を三百餘人衆手を連
 組。大矢を統率射蒐撃蒐。息抜も速びに拵きくるにぞ。天守一圓ふ燃す。火
 煙脚叢して都率我も。鳥もべく。爆声奮々く。湊御鐵園をも崩さんぞ。殆
 どまことにあざれに不見ふ。鐵兵あらゆる旗揚び。防ぎよひてぞ見えうりける。
 進氣も盡す勇氣拔塔す。まともや舊城遠時あり。進めくと呼えろく。季
 也かどふ遡る兵かく。二の丸側まで推極す。益ふ中將殿の忠臣ふ鐵智
 小十帝利高。大和國を取の城を越す。三十日も義利行の身あり。とつて太尉の壯士
 に被候す。慎で言狀もろく。今もや既ふ自方の兵士半と過ぐ歟死。
 残兵は多く疲勞よ甚じ。搜懸微す見えは。方僅へ御運の期かうんふ。小
 臣最期の一然して。欲と防ぎまわらと龜うれば。其際ふ快く御脛とりさせ
 ると氣むるをぞ。中將殿愉快氣ふ笑ふをかひ。咽を絞ふを思ひ泣きと
 て。血涙にしておゆ。蘿刀比翼と拭ふをゆひ。没今日よく我を。倘生令を
 全ふせを。承きせの送考とぞし。を據ふ舊命もくびと懇切小命せら。
 被蘿刀残傷もうたま。利高ハ渦流洞をもとえ。蘿刀を受くがくと
 御運の渦流のあんじくとく在くま。唯今ニ遙の川波を小臣喘量ひう
 まく。眞達の供奉比翼かさんと。重縛して走りゆ。走の闇風かう
 だ。鐵轡小十帝利高。恩に報ふ。末期の軍。遙城明智。アリ。陣中に真代武
 士のあるを。向ふと。体よと大毫芦ふ。手うけ。薦地ふ穿出。綱彈獨き
 駆中と。面も振らば。強て廻き。それ制止すと。數十騎。槍の衝先を蜻蛉追
 ま。手より。輕く蘿敷を。而面を一違ふ。捕圍り。よをほけま。と龍骨車。渦巻。歌
 代轉す。斬腕したる悍勇。而當てぐくを見ゆる。と。野口又義の良